

アートギャラリー

四国八十八ヶ所へんろ小屋プロジェクト
— 遍路文化の継承、広がりを願って —

歌 一洋

四国に八十八ヶ所の霊場札所を巡拝する遍路道が在る。
空海が開いたとされ、1200年余、お遍路さん、地元の人達によって脈々と今に受け継がれている。
「お接待」と「循環性」という祈りのカタチを体現した文化は世界でも稀である。
この四国全域1400kmの遍路道の89ヶ所に、歩きお遍路さんのための休憩、仮眠ができる「ヘンロ小屋」をボランティアで造っていくプロジェクト。
2001年から10数年をかける予定である。
小屋は地域の様々な人達と共に、つくる過程も大切に作る。
また小屋の設計にはその地域の風土、伝統文化、建築文化、空海を思想を多少なりとも表現し、より良い風景を創出する。
小屋づくりによって、人と人、人と自然のふれ合いや支え合いの深まりを願っている。また四国の遍路文化継承と広がりの一助になればと考える。
次ページからの写真は2009年5月から2009年11月までに完成した4棟の小屋。

小屋造りのコンセプト

- ・小屋を手段に人を主に、より良い風景を創出
- ・子供から年配者まで多くの人々の参加
- ・建築する土地の地域性を生かす
- ・地域の人々のボランティアによる
- ・地産地継

空間・デザイン

- ・人、自然とのコミュニケーションを重視した空間構成
- ・いい気が流れ、元気をもたらす空間構成
- ・物語性を構築
- ・光、風、水、土等との一体感を演出

空海

- ・思想を空間に置換
- ・空海ゆかりの物語をカタチに
- ・生誕の地（善通寺）、聖地（高野山）への意識

ヘンロ小屋 34号 久万高原

四国の軽井沢と言われる高原に建つ
地元の信用金庫の資金援助と商工会議所・町の
協力によって造られた



ヘンロ小屋 35号 土佐清水

地元商工会議所の女性会が寄付を集め建築資金に
デザインは土佐清水市花の椿
「木組は人組」間伐の木は人のメタファー



ヘンロ小屋 36号 神山

恵まれた風景を小屋の空間に融合

眺望を最大限に生かした空間のつくり

神鳥？が舞い降り、飛び立つイメージ。一時の休憩を



ヘンロ小屋 37号 法皇

柱は支え合いの精神を表現したカタチ
風景に溶け込みながら景観に焦点を造る
さらに地域の人のこころのポイントに

